

会社説明資料

2023年8月28日

 OAT⁰ OATアグリオ株式会社

証券コード：4979

- 1. OATアグリオグループ概要と
2022年12月期連結業績**
- 2. 2022年度の成果**
- 3. 2023年トピックスと第2四半期業績**
- 4. 新中期経営計画【2023-2025年】**
- 5. 株主還元**

- 1. OATアグリオグループ概要と
2022年12月期連結業績**
2. 2022年度の成果
3. 2023年トピックスと第2四半期業績
4. 新中期経営計画【2023-2025年】
5. 株主還元

◆OATアグリオグループ°

事業内容	農薬、肥料・バイオスティミュラントの研究開発、製造および販売
設立年月日	2010年9月28日
資本金	4億6,190万円
代表者	代表取締役社長 岡 尚
従業員数	678名
女性従業員 女性従業員比率	217名 32.0%
外国人数 外国人数比率	446名 65.8%
研究開発人員 研究開発人員比率	94名 13.9%
研究開発費率	売上高の約10%

◆OATアグリオ グループ各社

LIDA Plant Research S. L.



OAT&IIL India Laboratories



PT.OAT MITOKU AGRIO



クリザール社



OATアグリオ



潤禾（舟山）植物科技有限公司



Asahi Chemical Europe



旭化学工業(株)



インプラントイノベーションズ



◆沿革（2010～2022）



【2010】

大塚化学からMBOにて大塚アグリテクノを設立

【2012】

旭化学工業株式が社を100%子会社化

【2013】

インドにOAT & IIL India Laboratories Private Limited社を設立
殺菌剤「ガッテン」発売

OAT Pakistan Private Limitedを設立

【2014】

OATアグリオ株式会社社名変更
東京証券取引所 市場第二部上場

【2015】

東京証券取引所 市場第一部に指定

【2016】

PT. OAT MITOKU AGRIO設立

潤禾(舟山)植物科技有限公司設立

◆沿革（2010～2022）



【2017】

日本ジェネリック農薬協議会設立に参加
ISO 9001:2015取得

【2018】

日本バイオスティミュラント協議会設立に参加
LIDA Plant Research, S.L. and CAPA Ecosystems, S.L.を買収
株式会社インプランタイノベーションズを子会社化
クリザール関連20社を買収

【2019】

フルチアニルEU登録取得
GLOBAL GAP 取得

【2022】

東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の
市場第一部からプライム市場に移行

◆企業理念

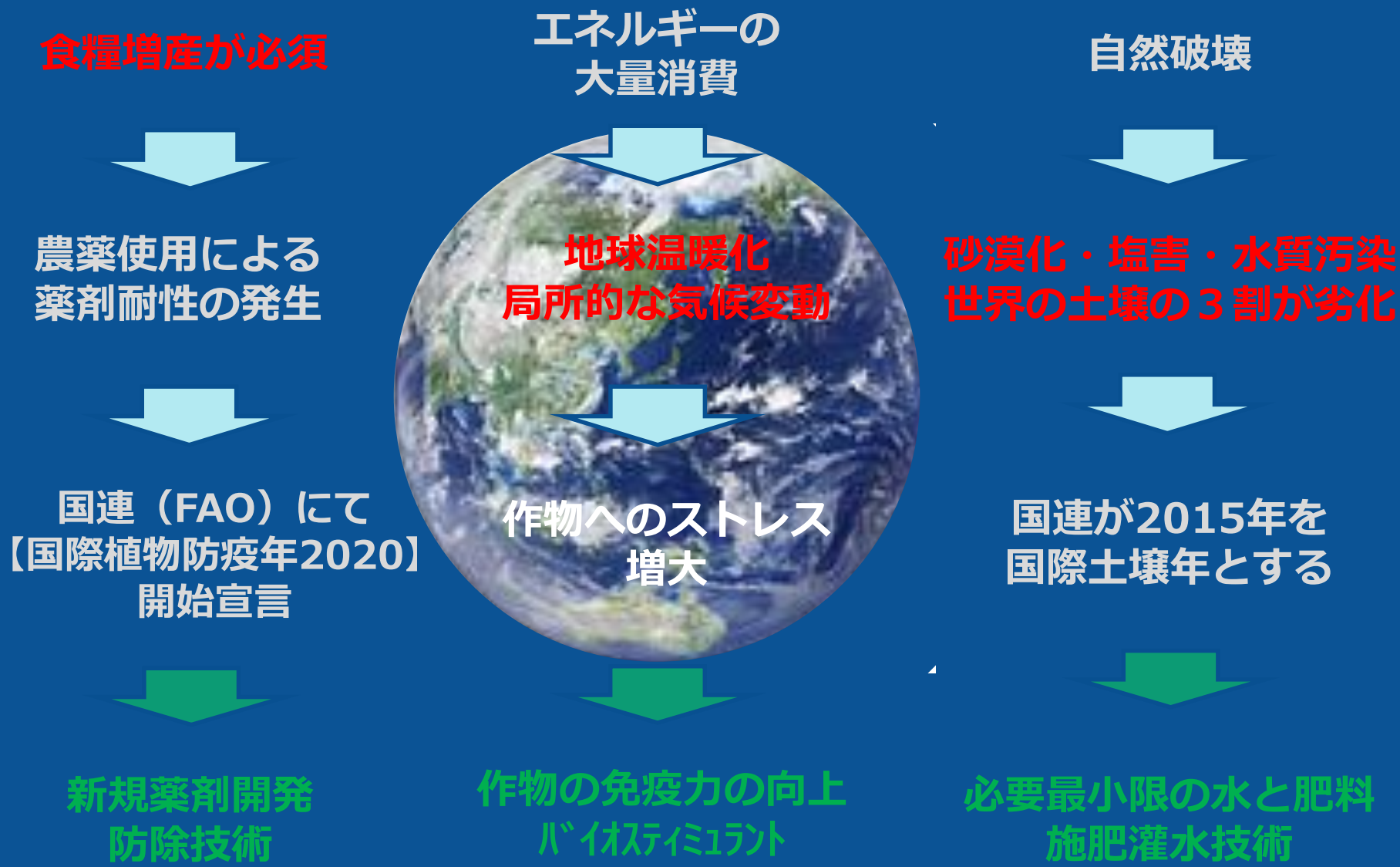
◆企業理念と3つのアグリテクノロジー

ESG（環境、社会、ガバナンス）経営、SDGs（持続可能な開発目標）への積極的な取り組み



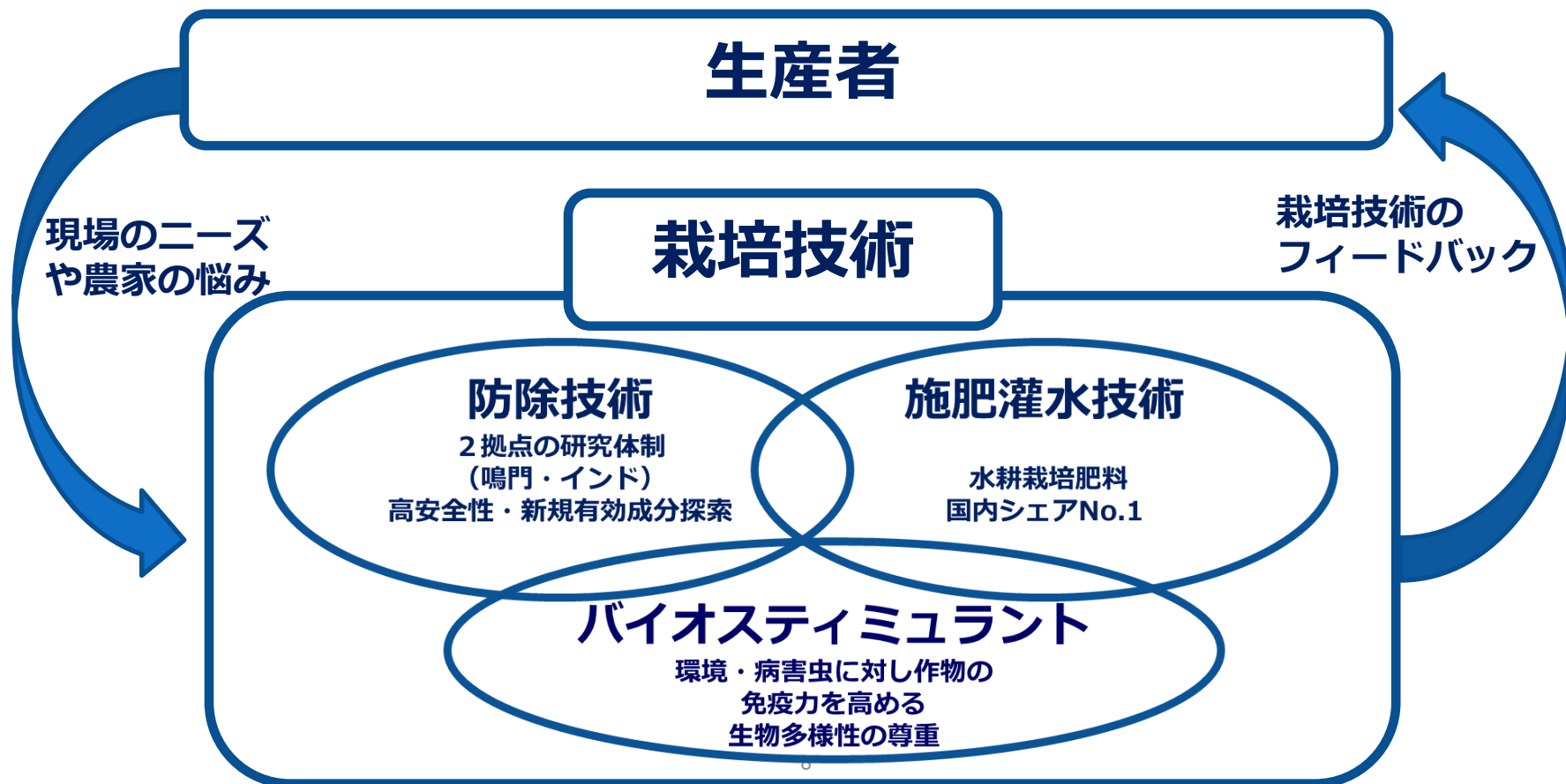
『企業理念』
食糧増産技術(アグリテクノロジー)と真心で
世界の人々に貢献します。

◆アグリテクノロジーを極める



◆OATアグリオの役割

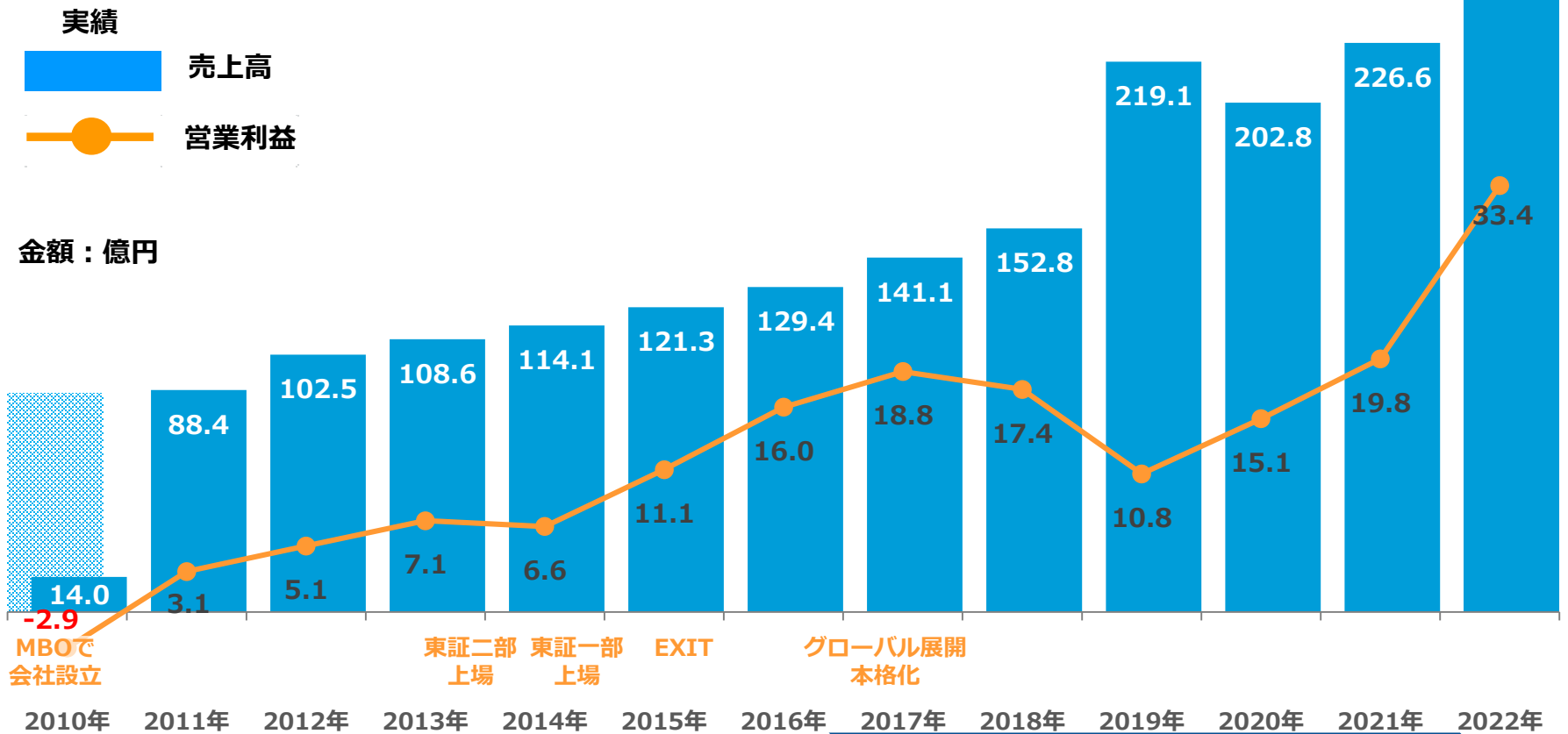
OATアグリオグループは、『企業理念』を実現するために、『栽培』を通して世の中に広く『アグリテクノロジー』を、普及させます。



◆2010～2022年売上高・営業利益推移

売上高年平均成長率 2011-2022年実績 10.7%

営業利益年平均成長率 2011-2022年実績 24.1%



創成期
2010～2017年

拡大期
2018～2022年

1. OATアグリオグループ概要と
2022年12月期連結業績
- 2. 2022年度の成果**
3. 2023年トピックスと第2四半期業績
4. 新中期経営計画【2023-2025年】
5. 株主還元

◆ 主な取組み 2022年結果①

◆ 成長ドライバーへの取組みを事業成長の柱とし、新製品の投入、スマート農業への参入、グローバルシナジーの最大化に注力

成長ドライバーへの取組み

- グリーンプロダクツ(GP)
- バイオスティミュラント(BS)
- 施設園芸分野へ需要掘起こし
(スマート農業：AI生育診断活用)
- グローバル製品展開

- ・ 国内果樹/柑橘市場拡大…別表①
- ・ 新製品の上市投入
- ・ BS製品有用事例の啓蒙
- ・ ATONIK作用機作の解明…別表②
- ・ 「アグリオいちごマスター」の立ち上げ
- ・ 栽培応援マニュアル作成…別表③
- ・ 既存製品の販売拡大…別表④
(販売国の拡大)

グローバルシナジーの最大化

- グループ間コミュニケーション
- 研究開発体制のグローバル化

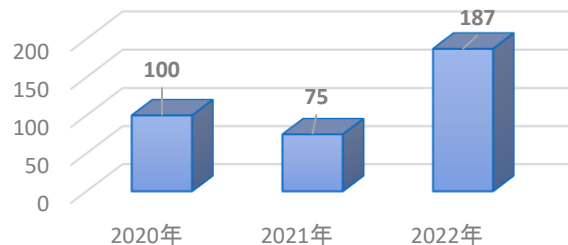
- ・ グループ間シナジーの追及…別表⑤
欧州グループ製品アジア展開PJ発足
南米エリアでの合同拡販PJ発足
生産/調達体制まで含めた効率化検討
- ・ 新製品市場導入状況…別表⑥

【別表①】 グリーンプロダクツの拡販

国内最大りんご市場での物理防除剤“アカリタッチ”の拡大
施設園芸分野トマト及び温州みかん市場での“サフオイル”の拡大



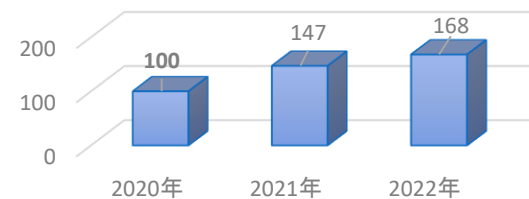
アカリタッチ乳剤販売量推移



りんごのハダニ防除剤として
評価が高まる



サフオイル乳剤販売量推移



トマト・カンキツの難防除害虫
防除剤として評価高まる

大型規格も好評



【別表②】 ATONIK[®]作用機作の解明

弊社バイオスティミュラント製品の“作用機作”を特定 Biostimulants World Congressにて発表

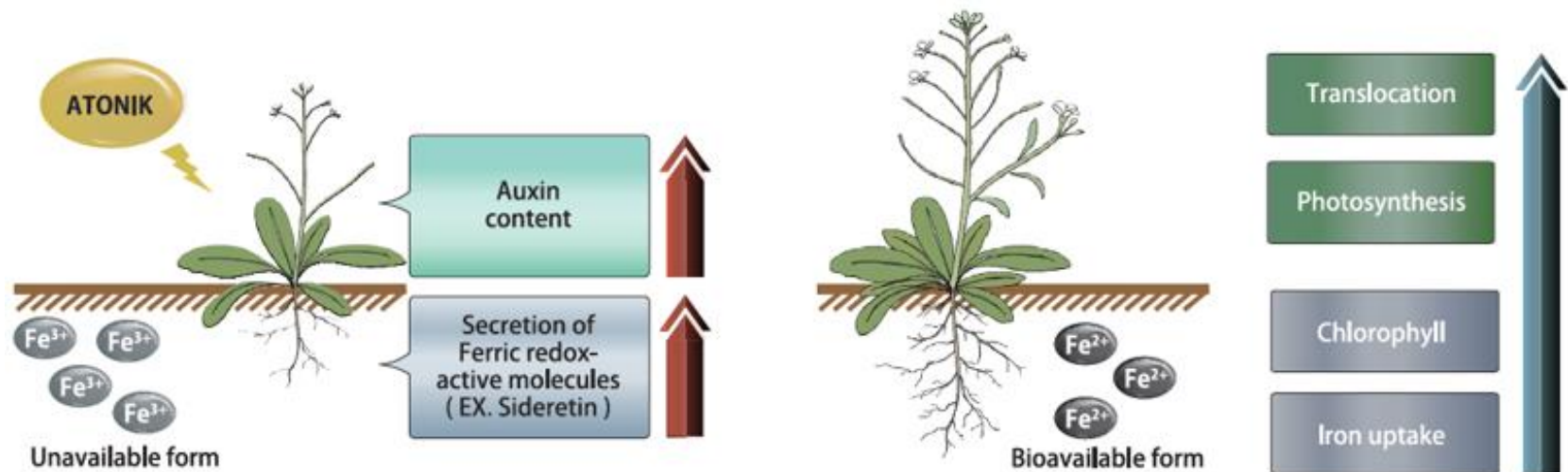
ATONIK[®] :

製品散布処理後 ERF109遺伝子を介してオーキシンが植物の体内にて増加することが判明。
また、土壌中の3価鉄を植物が利用しやすい2価鉄に還元するシデレチンの分泌を促進することも判明した。

その結果として、植物の生産性を高め、収量の増加と品質の向上をもたらす。

Biostimulants World Congress
Delivered as a Hybrid Event

29 November - 2 December 2021
DIPLOMAT BEACH FLORIDA



◆バイオスティミュラント (ATONIK)

ATONIK散布によるダイズの発育比較 (除草剤による影響の軽減) (ハンガリー)



◆ バイオスティミュラント (ATONIK)

ATONIK散布による玉ネギの生育比較 (インドネシア)



無処理区

ATONIK
処理区

【別表③】栽培応援マニュアルの作成

18作物の“栽培応援マニュアル”を作成 自社製品の独自栽培暦による栽培指導を行い“生産者の困り込み”活動を実施

農業 OATアグリオのトマト栽培応援マニュアル

OATアグリオの農業・資材 ※対象病害虫・雑草、希釈倍数・処理量、使用時期、使用回数等は、各農業のトマト・ミニトマトでの登録内容(抜粋)【2022年2月時点】

オレト液剤 **殺虫剤**

【特長】食品添加物に指定されているオレイン酸ナトリウムを有効成分とし、害虫の呼吸器官である気門を封鎖することにより窒息死させます。幅広い作物に使用でき、安全性が高く抵抗性もつきにくい殺虫剤です。

■有効成分：オレイン酸ナトリウム20.0%
■対象害虫：コナジラミ類、アブラムシ類
■希釈倍数：コナジラミ類 100～300倍
アブラムシ類 100倍
■使用液量：100～300ℓ/10a
■使用時期：発生初期～収穫前日まで
■使用方法：散布



サンヨール **殺菌・殺虫・殺ダニ剤**

【特長】有機銅 [DBEDC] を有効成分とし、うどんこ病、灰色かび病などに効果を示すと同時にコナジラミ、アブラムシ、ハダニ類も防除可能な殺菌剤です。農産物に食味で、葉や花、葉への汚れが少なくなります。

■有効成分：ドテシレンベンゼン硫酸銅 20.0%
ビスエチレンジアミン銅塩 10.0%
■対象害虫：コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類
■対象病害：葉かび病、灰色かび病、うどんこ病
■希釈倍数：コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、葉かび病、灰色かび病 500倍
うどんこ病 500～700倍
■使用液量：100～300ℓ/10a
■使用時期：収穫前日まで
■使用回数：4回以内
■使用方法：散布
■DBEDCを含む農業の使用回数：4回以内



サフオイル乳剤 **殺虫・殺ダニ剤**

【特長】害虫の呼吸器官である気門を封鎖することにより窒息死させるので、既存の薬剤に対して抵抗性の発達したハダニ類およびコナジラミ類にも効果を発揮します。また殺菌活性をも認められます。幅広い作物に使用でき、天候、訪花昆虫に対する影響が少なくIPM(総合的病害虫管理)に適しています。

■有効成分：混合ソレノキサール油及び練成油の
含量として97.0%
■対象害虫：ハダニ類、トマトサビダニ類、コナジラミ類
■対象病害：うどんこ病
■希釈倍数：ハダニ類 300～500倍
トマトサビダニ類、コナジラミ類、うどんこ病 300倍
■使用液量：100～500ℓ/10a
■使用時期：収穫前日まで
■使用方法：散布



ショウチノスケフロアブル **殺菌剤**

【特長】本剤の有効成分の一つであるフルチアニルはテュエルカット・オゾンを有する殺菌剤であり、各種うどんこ病に対して高い効果を示します。もう一つの有効成分のメバニピリムは宿主細胞壁分解酵素の分泌阻害および葉着生の取り込み阻害作用を有しており、うどんこ病のほか灰色かび病に安定した効果を示します。

■有効成分：フルチアニル 1.8%
メバニピリム 20.0%
■対象病害：うどんこ病、灰色かび病
■希釈倍数：2000倍
■使用液量：100～300ℓ/10a
■使用時期：収穫前日まで
■使用回数：2回以内
■使用方法：散布
■フルチアニルを含む農業の使用回数：2回以内
■メバニピリムを含む農業の使用回数：4回以内



カリグリーン **殺菌剤**

【特長】うどんこ病に対して治療効果を示します。カリ肥料としての登録もあり、うどんこ病などの病害と同時に肥料効果も期待できる殺菌剤です。安全性が高く幅広い作物に使用でき有機農産物の日本農林規格 (JAS有機) に適合する農業です。


■有効成分：炭酸水素カリウム 80.0%
■対象病害：うどんこ病、灰色かび病、葉かび病
■希釈倍数：うどんこ病 800～1000倍
灰色かび病、葉かび病 800倍
■使用液量：100～300ℓ/10a
■使用時期：収穫前日まで
■使用方法：散布




トアロー水和剤CT **殺虫剤**

【特長】パチルスチューリングシスの産生する結晶毒素により、チョウ目害虫に対し安定した効果を得られます。安全性が高く、有機農産物の日本農林規格 (JAS有機) に適合する農業です。

■有効成分：パチルスチューリングシスの産生する結晶毒素 7.0%
■対象害虫：ヨトウムシ
■希釈倍数：ヨトウムシ 500～1000倍
■使用液量：100～300ℓ/10a
■使用時期：発生初期～収穫前日まで
■使用方法：散布



トアローフロアブルCT **殺虫剤**

【特長】パチルスチューリングシスの産生する結晶毒素により、チョウ目害虫に対し安定した効果を得られます。安全性が高く、有機農産物の日本農林規格 (JAS有機) に適合する農業です。

■有効成分：パチルスチューリングシスの産生する結晶毒素 7.0%
■対象害虫：オオタバコガ
■希釈倍数：オオタバコガ 500～1000倍
■使用時期：発生初期～収穫前日まで
■使用方法：散布



トマト・ミニトマト 農業防除事例

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
トマト 促成栽培	作物	トマト																																		
	時期	定植																																		
	1/15	×300 コナジラミ 発生時に連防殺菌剤																																		
	1/20	×500 うどんこ病、コナジラミ等 発生時																																		
トマト 半促成栽培	作物	トマト																																		
	時期	定植																																		
	1/15	×300 コナジラミ 発生時に連防殺菌剤																																		
	1/20	×500 うどんこ病、コナジラミ等 発生時																																		
トマト 夏秋型	作物	トマト																																		
	時期	定植																																		
	1/15	×300 コナジラミ 発生時に連防殺菌剤																																		
	1/20	×500 うどんこ病、コナジラミ等 発生時																																		
トマト 早秋型	作物	トマト																																		
	時期	定植																																		
	1/15	×300 コナジラミ 発生時に連防殺菌剤																																		
	1/20	×500 うどんこ病、コナジラミ等 発生時																																		
トマト 早摘型	作物	トマト																																		
	時期	定植																																		
	1/15	×300 コナジラミ 発生時に連防殺菌剤																																		
	1/20	×500 うどんこ病、コナジラミ等 発生時																																		

●使用にはラベルをよく読んでください。●丸の登録以外には使用しないでください。●防除日数を記載しましょう。●本剤は小児の手が届くところに置かないでください。●空容器は環境などに放置せず、適切に処理してください。

【別表④】 製品のグローバル拡大

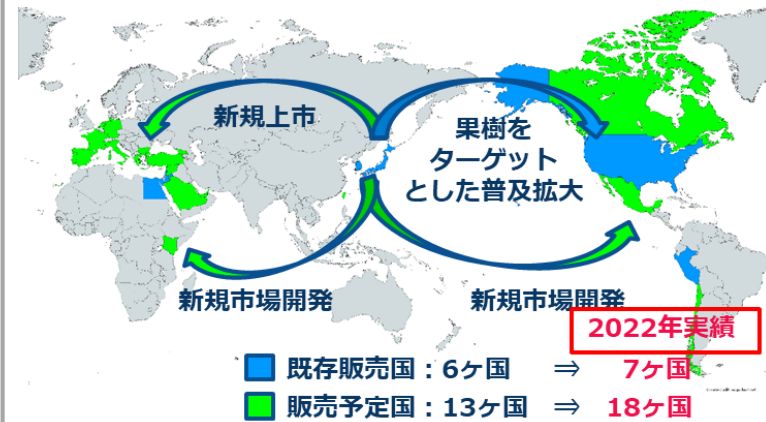
グローバルで売上拡大

2022年目標の「販売国：89ヶ国以上」に対して「94ヶ国」の実績

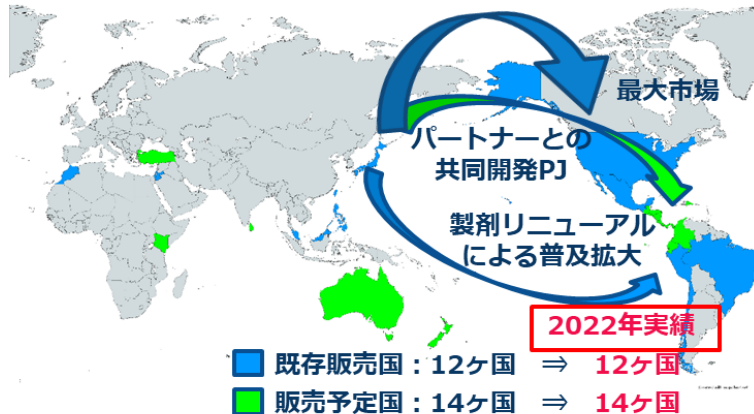
◆殺ダニ剤：ダニサラバ



◆殺菌剤：ガッテン



◆殺菌剤：カリグリーン(グリーンプロダクツ)



◆肥料製品

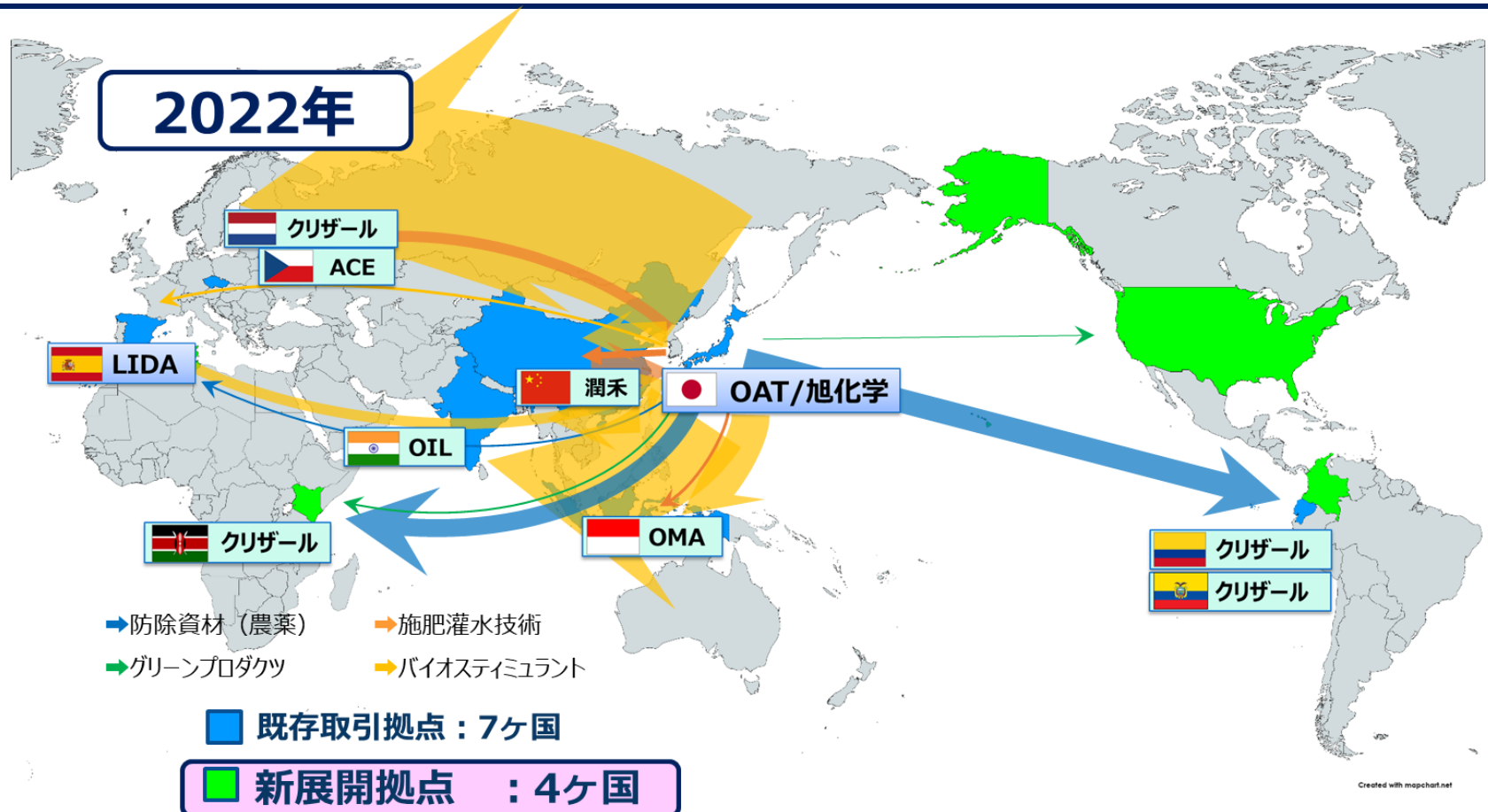


【別表⑤】 グループ間シナジーの追及

欧州グループ向け中心に売上122%拡大（2022年実績）

グループ会社製品の南米/アジアエリアへの拡販プロジェクト立上げ

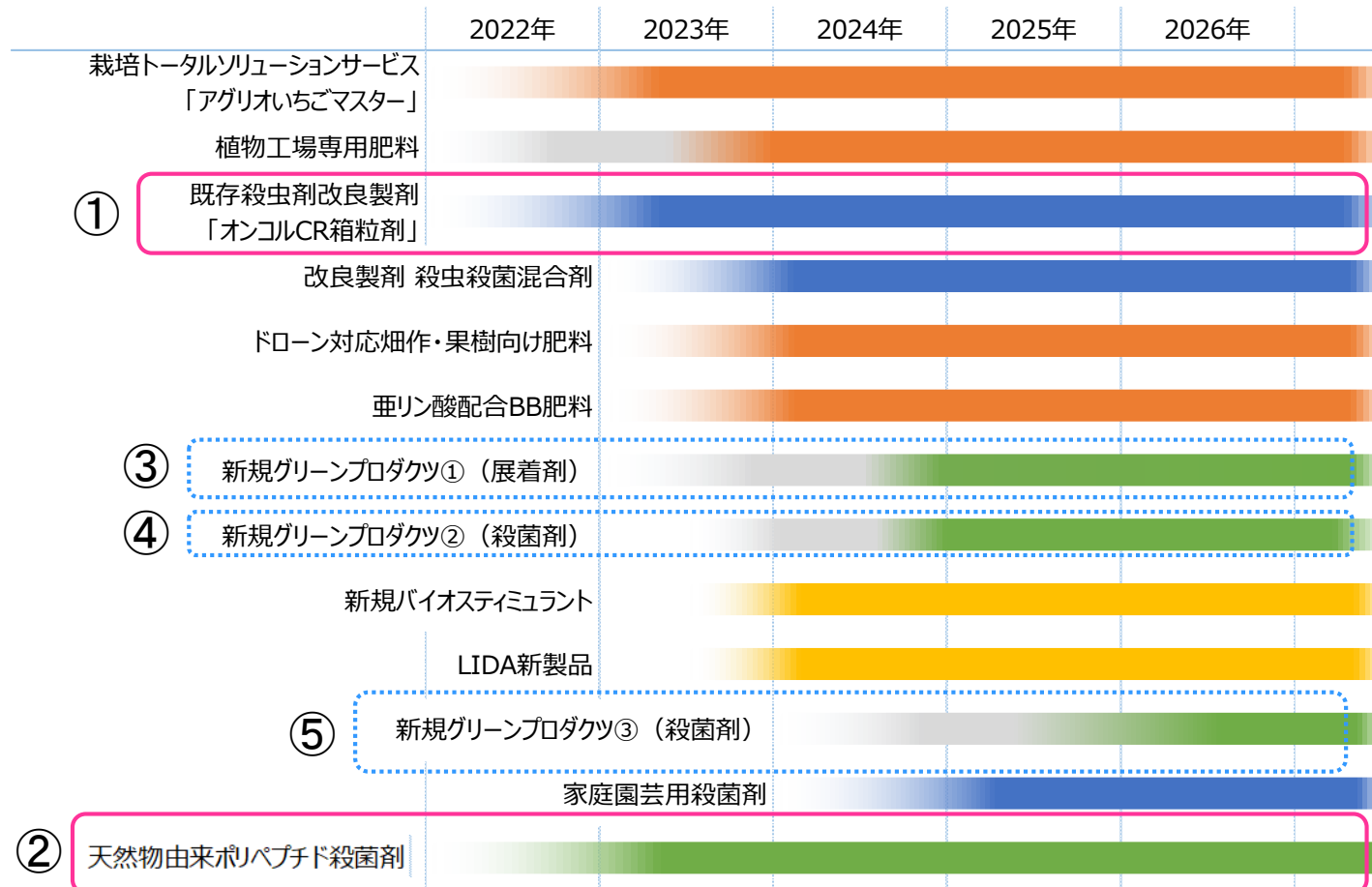
生産/購買調達のグローバルでの最適化検討の開始



【別表⑥】新製品市場導入 2022年進捗

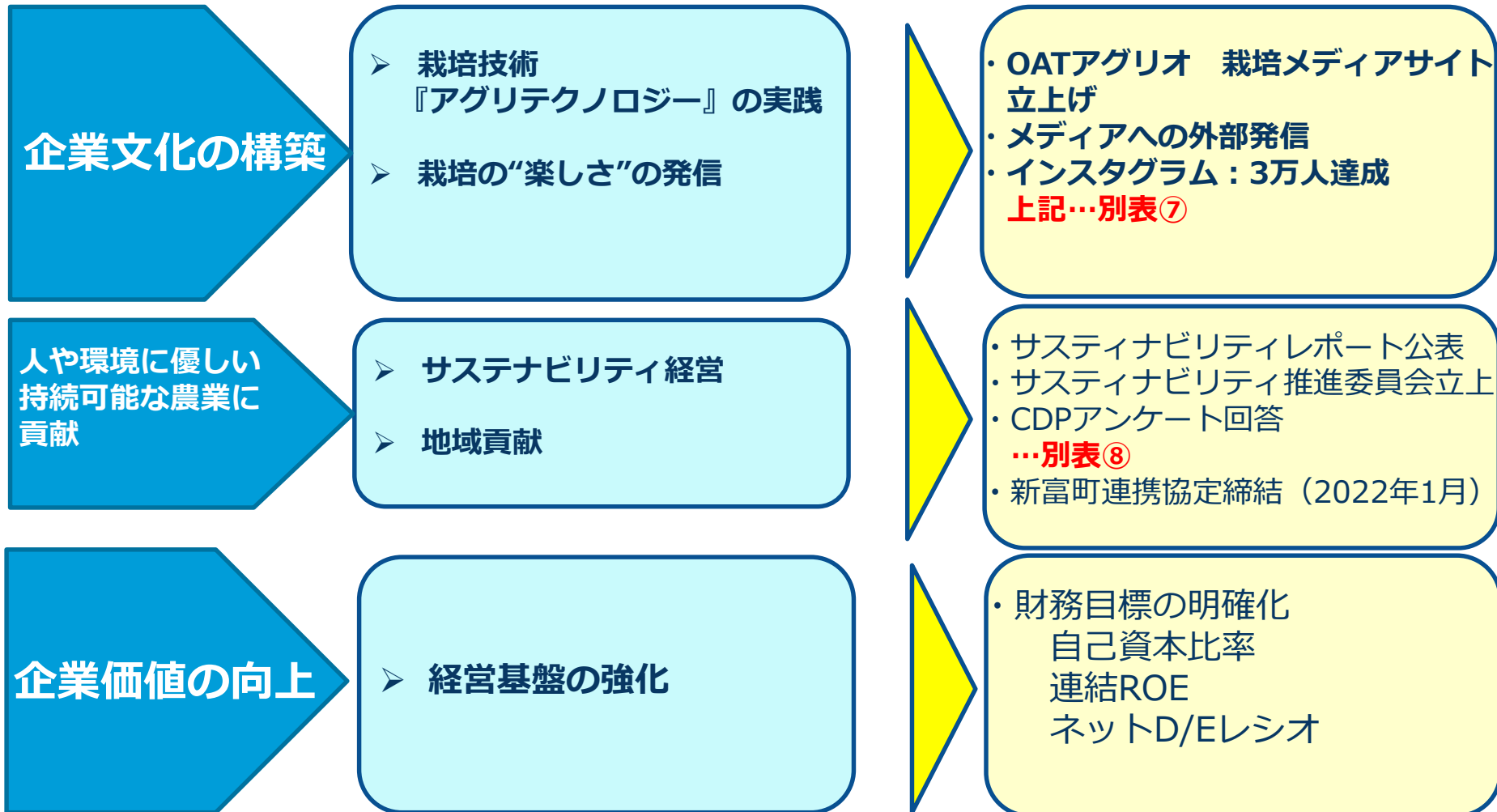
研究開発の状況

- ・既存殺虫剤改良製剤「オンコルCR箱粒剤」上市 ①
- ・天然物由来ポリペプチド殺菌剤を韓国にて販売開始 ②
- ・新規グリーンプロダクツ③④⑤は、許認可待ち ③④⑤



◆ 主な取組み 2022年結果②

◆ 企業文化の構築、人や環境に優しい持続可能な農業に貢献できる経営を目指し、企業価値の向上を図る



【別表⑦】 栽培メディアサイト立上げ

OATアグリオグループの願いは、全ての人々に「育てる喜び」「観る感動」「食べる幸せ」を届けること
 “農業も人々の暮らしも受け継がれていく”

1人の少女の成長を通して食の大切さ農業の大切さを伝えたく、イメージ動画を作成

栽培の楽しさを多くの方に伝えるため、栽培メディアサイトHPを作成

毎日Instagramに栽培に関する投稿、フォロワー数 3万人over



OATアグリオの願い
 動画公開中

O — おいしいを
A — あたりまえにする
T — テクノロジー
ア
グ
リ
オ

2022年、世界人口はついに80億人を突破。もはや世界には、これだけの人口を養っていくほどの食糧がありません。限りある耕作地、環境の変化に左右されず、いかに良い「農作物をより多く収穫できるか」、このミッションに挑むべく、OATアグリオは先進の食糧増産技術（アグリテクノロジー）を開発。「防除技術」「施肥灌水技術」「バイオスティミュラント」を3つの柱に掲げ、食糧問題解決の一助を担うべく果敢に取り組んでいます。

OATアグリオの願いは、全ての人々に「育てる喜び」「観る感動」「食べる幸せ」を届けること。

◆ 企業文化の構築と新規ビジネスへの挑戦

- OATアグリオは“栽培の楽しさ”を世界に発信します。
- 社員自ら栽培に取り組み、栽培の楽しさや、難しさ、を発信する事を企業文化とします。
- 栽培を楽しむ全ての人々に、栽培をより簡単に楽しめる方法を提案し、新たなD2Cビジネスに挑戦します。



◆企業理念と企業文化

『企業理念』

食糧増産技術(アグリテクノロジー)と真心で
世界の人々に貢献します。

『企業文化』

栽培の楽しさ・難しさを自ら体験
世界に発信する。



『理念の実現』

栽培を通してアグリテクノロジーを普及させることで
人や環境に優しい持続可能な農業に貢献し
『環境保全』 『資源効率の改善』 『飢餓撲滅』 を実現します。

「アグリテクノロジー」を極めると
「食糧増産」に繋がり

「人や環境に優しい持続可能な農業」に貢献できます。
OATアグリオグループの願いは



すべての人々に
育てる喜び、観る感動、食べる幸せ
を届けることです

【別表⑧】 サステナビリティ経営の実践

◆ ESG経営

当社グループは、ESG経営を通して、サステナブルな社会を構築していく事に貢献出来る事業活動を進めてまいります。

当社グループの企業活動そのものが、SDGsへの取組みであり、更に事業の持続可能性向上を図るために、2022年下記取組みを実践しております。

◆ 当社グループの取組（2022年実績と今後）

◆ CDPアンケートへの回答（2022年12月スコア公表）

<https://www.cdp.net/ja/responses?queries%5Bname%5D=OAT+Agrio>

◆ カーボンニュートラルへの対応

- ・ GHG（温室効果ガス）のSCOPE1,2,3算定データ収集、削減目標の設定（継続）

◆ OATアグリオグループ『サステナビリティレポート』作成（2022年3月）

<https://www.oat-agrio.co.jp/whome/wp-content/uploads/2022/03/2022033001.pdf>

- ・ 毎年更新（2023年3月末予定）

1. OATアグリオグループ概要と
2022年12月期連結業績
2. 2022年度の成果
- 3. 2023年トピックスと第2四半期業績**
4. 新中期経営計画【2023-2025年】
5. 株主還元

◆2023年度トピックス

- 2月 ◆新中期経営計画【2023-2025年】発表
- 3月 ◆サステナビリティレポート発表
- 5月 ◆2023年12月期通期連結業績上方修正発表
- 5月 ◆配当予想の修正発表
- 5月 ◆宮崎県新富町にて実証農場の開所式開催
- 5月 ◆バイオスティミュラント製品使用ガイド集作成
- 6月 ◆株式会社インプラントイノベーションズにおける植物分野での CRISPRCas3 技術の応用に向けた共同研究提携契約締結発表

◆宮崎農場開所 地域農業の振興と発展に貢献

宮崎県新富町との地域農業の振興と発展に関する連携協定（2022/1）
による現地実証農場の運営を2023年5月より開始（作付け面積：10a）

* 栽培トータルソリューションサービス「アグリオいちごマスター」の実証

* 有機質肥料活用型養液栽培「プロバイオポニックス」の実証



2022年1月25日

OATアグリオ株式会社
宮崎県新富町



OATアグリオ株式会社と新富町の『持続可能な地域農業の振興と発展に関する連携協定』の締結について

OATアグリオ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 岡 尚、以下、OATアグリオ）と宮崎県新富町（町長：小嶋 崇嗣、以下、新富町）は連携のもと、協力して次の連携協力事項を推進することにより、持続可能な地域農業の振興と発展に資することを目的として、連携協定を締結しましたので

- (1) ICT技術を活用したスマート農業を技術の実証実験及び開発に関すること
- (2) 有機質肥料活用型養液栽培（プロバイオポニックス）による環境負荷及び化学肥料削減すること。
- (3) 地域農業の活性化及び人材育成に関
- (4) 企業参入による地域農業の振興と雇
- (5) その他両者が必要と認める事項



これまでに9組34名が来場

◆宮崎農場

栽培トータルソリューションサービス「アグリオいちごマスター」の実証

「アグリオいちごマスター」を活用した栽培の最適化を行い、得られた収穫物の収益性を検証する。



OAT【栽培技術】



養液土耕システム【オプション機能込み】



生育診断システム



各種 必要肥料/BS製品

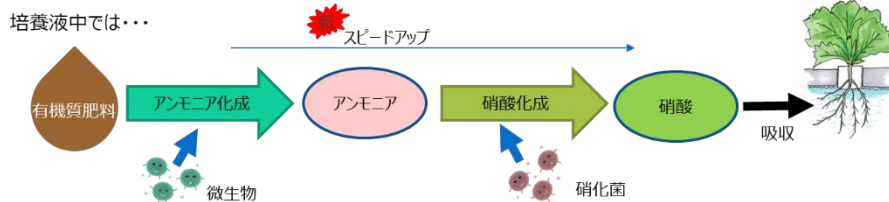
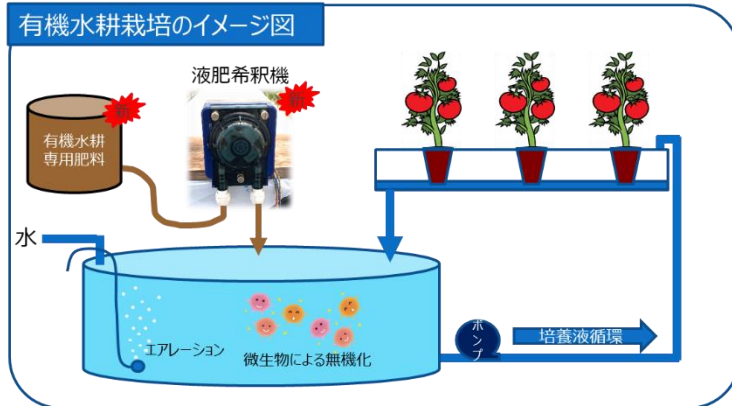


各種 グリーン農薬製品

◆宮崎農場

有機質肥料活用型養液栽培「プロバイオポニックス」の実証

「プロバイオポニックス」とは、微生物を活用する循環型栽培方法であり、2022年2月にプロバイオポニックスで栽培した農産物について日本農林規格（JAS）を新たに取得している。



累計出荷数：
1020パック

「みどりの食料システム戦略」⇒化学肥料の使用量を30%低減
有機農業の取り組み面積を25%
OATはプロバイオポニックス栽培でこの目標に貢献。

◆ バイオスティミュラント製品の使用ガイド集を作成

バイオスティミュラント4製品の使用ガイド集を作成
国内でのバイオスティミュラント製品の拡大展開を加速

OATアグリオの
 **バイオスティミュラント製品
使用ガイド集**

総合版

果菜類 葉菜類 畑作
 果樹類 その他 芋類



OAT アグリオ株式会社

lidavital[®]
(リダバイタル)



光・温度などの
ストレス軽減に効果的！

algamix[®]
(アルガミックス)



花・果実に効果的！

fullbody[®]
(フルボディ)



土壌環境の改善に効果的！

ポテトール[®]



植物由来
「光合成促進成分」配合

◆ バイオスティミュラント (リダバイタル)

リダバイタル散布によるお茶の発育比較 (日本)



無処理区



リダバイタル
処理区

※一番茶の新芽発芽促進を確認

ぶどうへのアルガミックス散布による着色促進（日本）



フルボディ散布による玉ネギの生育比較（日本）



無処理区



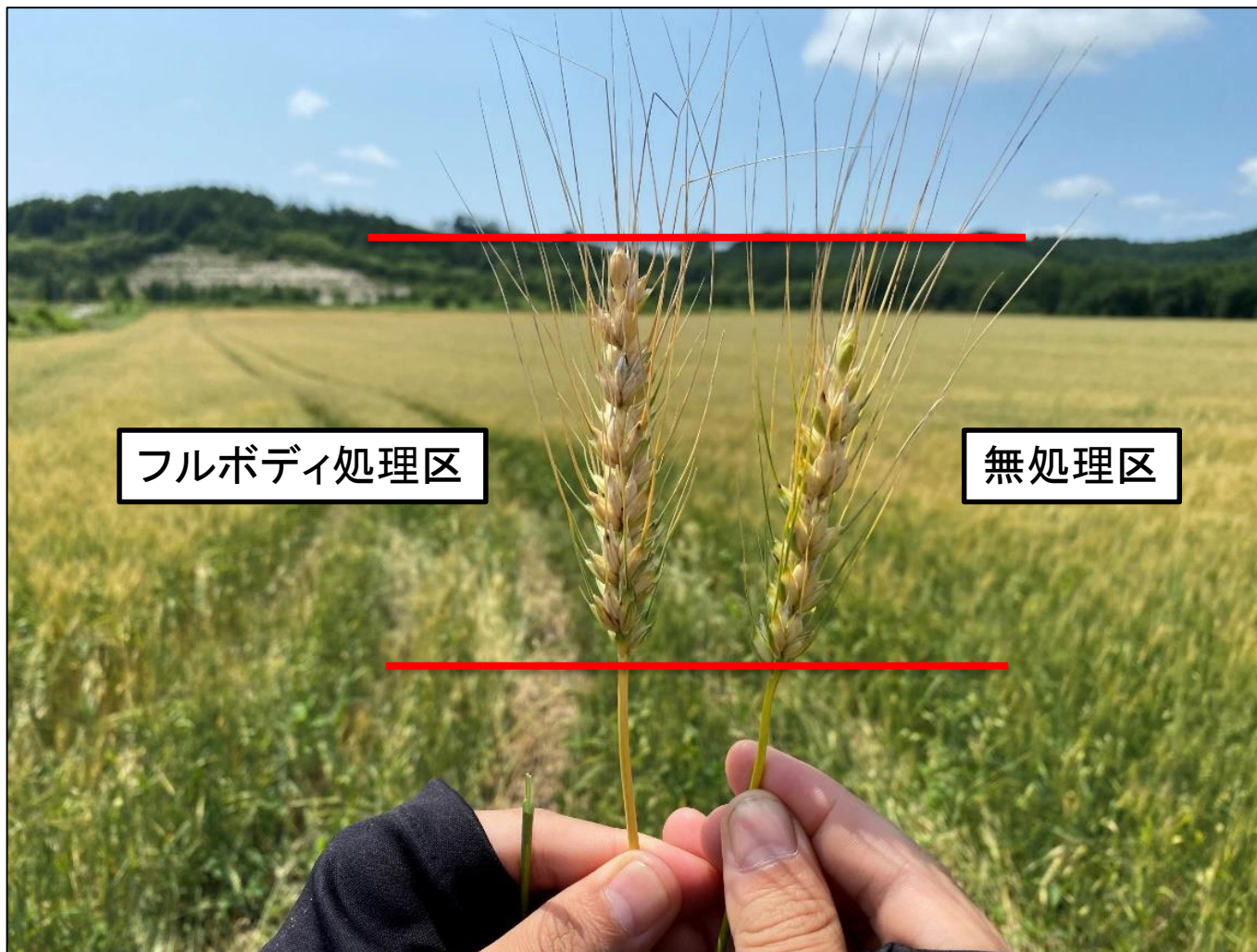
フルボディ処理区

※初期活着期のフルボディ処理で結球までの玉ぞろいが整う結果を確認。

秋まき小麦でのフルボディ発根効果（日本）



春まき小麦へのフルボディ播種直後散布効果（日本）



◆バイオスティミュラント（フルボディ）

ニンジンへのフルボディ播種直後散布効果（日本）



無処理区

フルボディ処理区

◆バイオスティミュラント（ポテトール）

かんしょへのポテトール散布による増収効果（日本）

無処理区



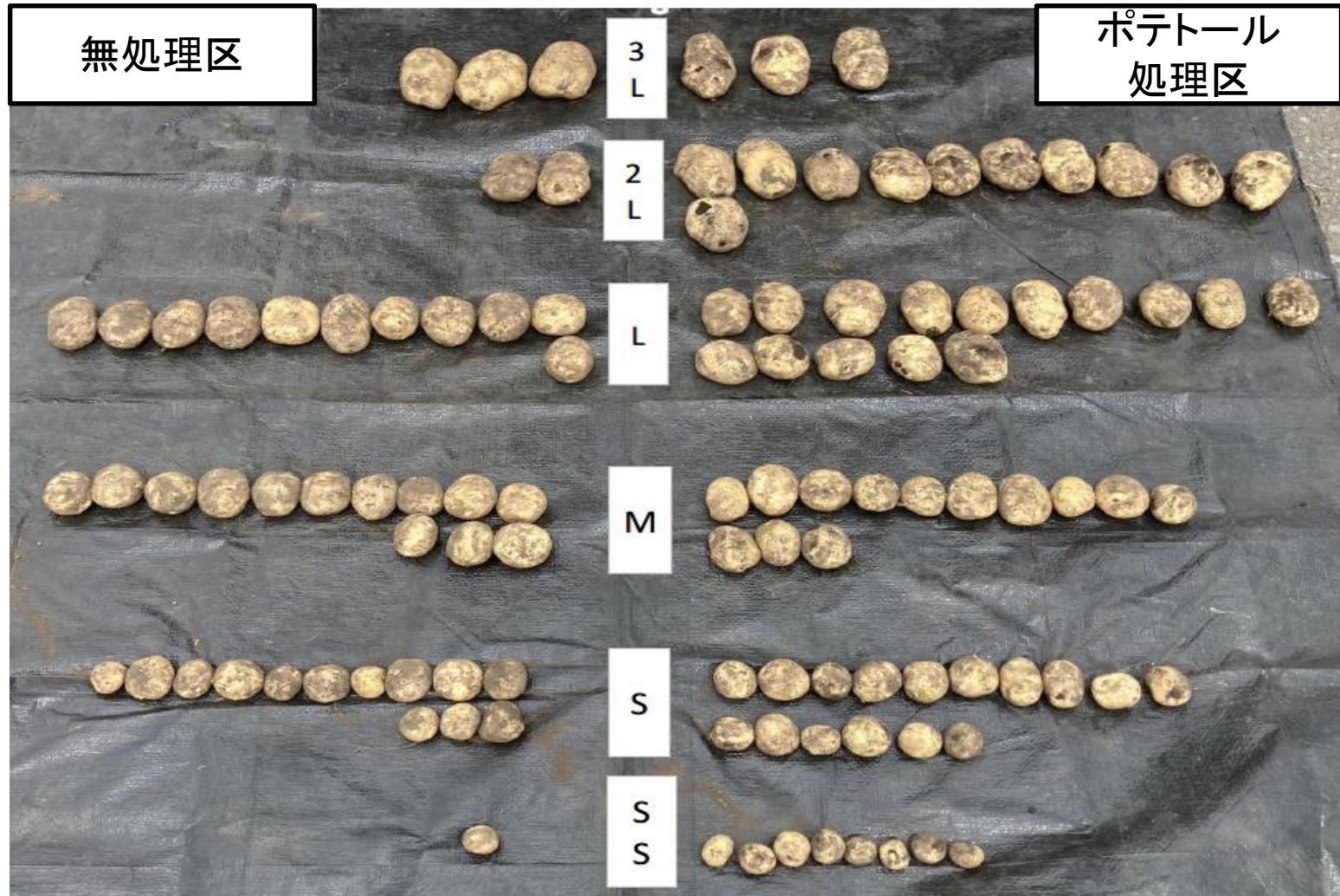
ポテトール処理区



※無処理区と比較して
13%の増収効果

◆バイオスティミュラント（ポテトール）

ばれいしょへのポテトール散布による増収効果（日本）



※無処理区と比較して57%の増収効果

植物研究の成果を事業化する研究開発受託会社

- ◆所在地：神奈川県横浜市鶴見区生麦4-5-11
- ◆設立：2003年3月25日
- ◆代表者：寺川 輝彦
- ◆資本金：20,000,000円
- ◆概要：バイオ技術で植物の機能を引き出し、新たな可能性の発展をめざす企業。植物培養、遺伝子解析や形質転換、ゲノム編集、温室・隔離ほ場栽培など、幅広い分野の研究に対応している。植物の研究および実用化に関する多くの経験と実績、国内外ネットワークおよび最新情報の収集・分析で、食糧および環境問題、生薬、機能性成分生産植物から観賞用植物にいたるまで、ユーザー様の研究計画に添った最適なお支援を提供します。

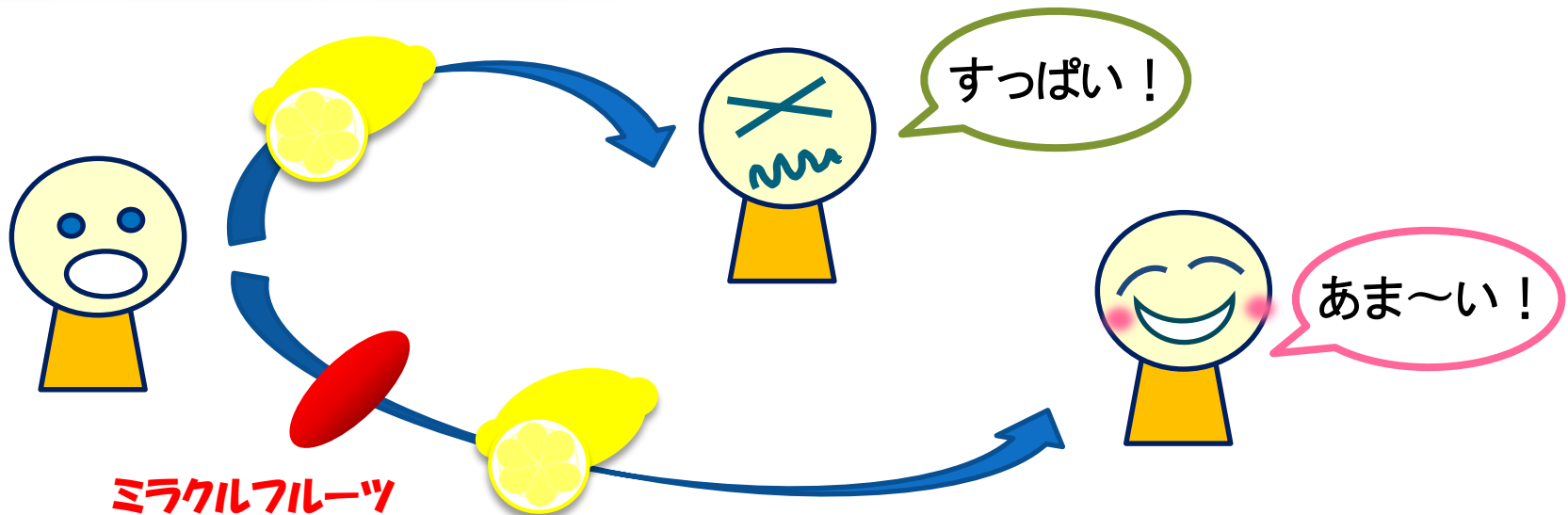
【主な製品技術およびサービス】

- ①形質転換/ゲノム編集サービス
- ②全成分メタボローム解析
- ③クローン苗生産
- ④コンサルティング
- ⑤製商品販売

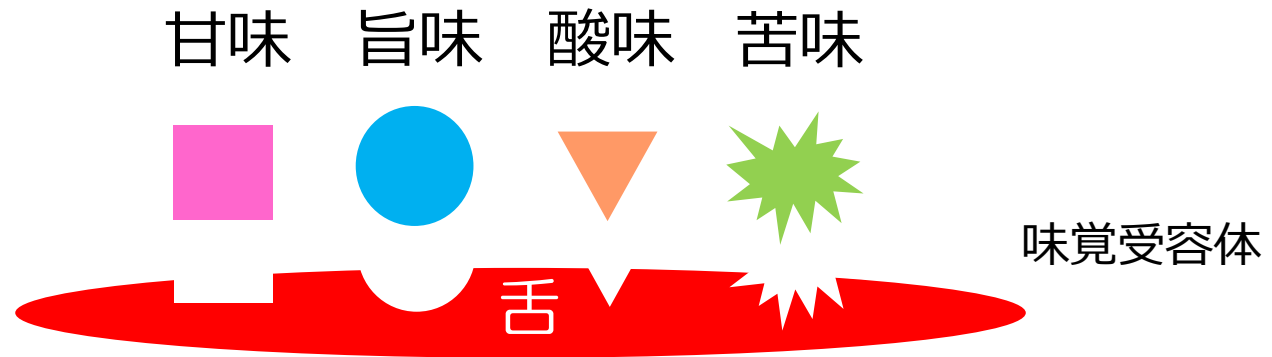




西アフリカ原産熱帯小木である
ミラクルフルーツ果実中に蓄積する
糖タンパク質
酸味を甘味として感じさせる味覚
修飾作用がある



味覚は鍵と鍵穴（受容体）の関係に似ている



筑波大学との共同研究



ミラクルフルーツ



ミラクリン遺伝子



5 B系統

遺伝子
組換えトマト



レタス

- ・高収量性
- ・植物工場栽培が可能
- ・導入遺伝子が不安定



イチゴ

- ・施設栽培が可能
- ・ミラクリン蓄積少ない

- ・栽培が容易
- ・収量が安定
- ・量産が可能
- ・ミラクリン含量が安定

➤ 新しい価値の創出

- 国内で開発された初めての遺伝子組換え食品

➤ 健康な社会生活への貢献

- 生活習慣病予防への貢献
- 制限食によるストレス緩和
- 健康長寿社会のサポート



機能性食品素材 × 健康寿命を延ばす

『食べて健康』

◆2023年12月期第2四半期連結業績

2023年12月期第2四半期連結業績

金額：百万円

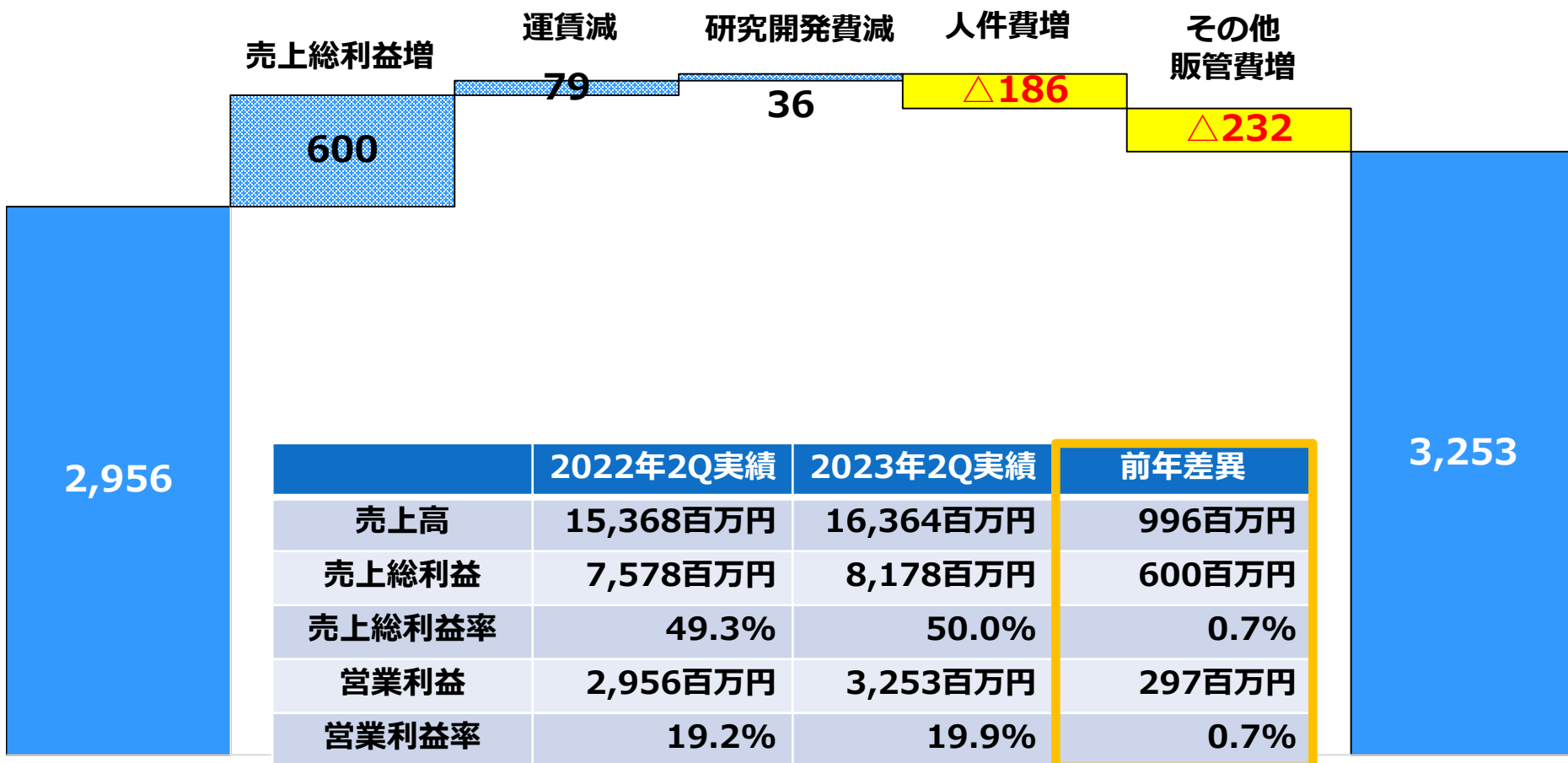
科目	2022年 12月期 2Q業績	2023年 12月期 通期見込	2023年 12月期 2Q業績	前年比	進捗率
売上高	15,368	28,500	16,364	106.5%	57.4%
営業利益	2,956	4,000	3,253	110.0%	81.3%
経常利益	3,109	4,050	3,399	109.3%	83.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,102	2,650	2,275	108.2%	85.8%

- ※国内農薬：殺虫剤「オリオン」「オンコル」、殺菌剤「ショウチノスケ」が好調
グリーンプロダクツ「トアロー」「トモノール」が堅調に推移
- 国内肥料・BS：バイオスティミュラント剤「リダバイタル」「アルガミックス」
「フルボディ」「ポテトール」が伸長
- 海外農薬：殺ダニ剤「ダニサラバ」が引き続き順調に推移
グリーンプロダクツ「アカリタッチ」も大幅に伸長
- 海外肥料・BS：「アトニック」が好調を維持し、中南米やアジア地域への展開も進捗
クリザール社、LIDA社も売上高が伸長

◆2023年12月期第2四半期連結営業利益増減分析（対前年）

 プラス要因
  マイナス要因

金額：百万円



2022年12月期

2Q営業利益

2023年12月期

2Q営業利益

◆2023年12月期四半期毎及び上期連結業績分析（対前年）

金額：百万円

	2022年 1-3実績	2023年 1-3実績	前年差異	2022年 4-6実績	2022年 4-6実績	前年差異
売上高	8,216	9,307	1,091	7,152	7,057	△95
売上総利益	4,079	4,903	824	3,500	3,276	△224
営業利益	1,765	2,507	742	1,191	746	△445
経常利益	1,853	2,511	658	1,256	888	△368
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,276	1,703	427	826	572	△254

※4-6実績前年比較

- 国内農薬 : 殺虫剤「オリオン」、殺ダニ剤「ダニサラバ」、殺菌剤「ショウチノスケ」が好調
殺虫剤「ハチハチ」、除草剤「プリグロックス」が減少
- 国内肥料・BS : 国内主力肥料が減少
バイオスティミュラント剤「リダバイタル」「アルガミックス」「フルボディ」「ポテトール」が伸長
- 海外農薬 : 殺ダニ剤「ダニサラバ」、殺菌剤「カリグリーン」が引き続き順調に推移
殺虫剤「オンコル」が減少
- 海外肥料・BS : 「アトニック」が好調を維持し、クリザール社も堅調に推移

◆新中期経営計画及び2023年通期業績予想

新中期経営計画及び2023年通期業績予想（連結）

金額：百万円

	2022年実績	2023年計画 (新中計)	2023年実績 予想	2024年計画 (新中計)	2025年計画 (新中計)
売上高	26,960	27,700	28,500	29,200	30,700
営業利益	3,346	3,200	4,000	3,400	3,700
営業利益率	12.4%	11.5%	14.0%	11.7%	12.1%
経常利益	3,385	3,120	4,050	3,280	3,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,261	2,100	2,650	2,210	2,550

※2023年連結業績は好調であり、売上高・営業利益ともに過去最高を更新見込み

1. OATアグリオグループ概要と
2022年12月期連結業績
2. 2022年度の成果
3. 2023年トピックスと第2四半期業績
- 4. 新中期経営計画【2023-2025年】**
5. 株主還元

長期ビジョン

～ ありたい姿 ～

◆OATアグリオグループの長期ビジョン

オリジナリティーのある発想で
新市場の創造に挑戦できる

変化対応型企业

外部環境の変化
地域特性への対応など
多様性を感受出来る企業

防除技術
施肥灌水（栽培技術）
バイオスティミュラント
農業の未来に貢献する企業

企業理念を土壌とし、
アグリテクノロジーという自社の技術を幹に、
枝や葉を伸ばすように社員の成長を通じてありたい姿を目指すイメージ

新中期経営計画【2023-2025年】

～ 『新たな挑戦に向けて』 ～

◆外部環境変化の前提（トレンド予測：2022年～）

ネガティブリスクの拡大：2022年～

- ◆ ロシア・ウクライナ紛争（2022年2月）
 - ・エネルギー/原料コストの増大
 - ・穀物コストの増大　・全世界的な食料逼迫
- ◆ 世界的な耕地面積の縮小
- ◆ 日本国内での環境変化
 - ・高齢化加速、少子化、人口減少
 - ・耕作放棄地の増加
 - ・食料安全保障問題の顕在化（食料自給率の向上目的）



- 世界情勢/地政学リスクの不安定化
- 為替の不安定化
- 環境対応コストの増大

ポジティブ（チャンス）：2022年～

- ◆ 世界人口増加 2022年11月80億人突破
- ◆ カーボンニュートラル（環境保護に対する意識の向上）
- ◆ みどりの食料システム戦略（農水省）の具体化
 - ・みどりの食料システム法 法律施行（7月）
 - ・環境負荷低減に資する“戦略”実現に向けた政策の推進
 - 化学農薬使用量（リスク換算）の低減
 - 化学肥料使用量の低減
 - 耕地面積に占める有機農業の割合
- ◆ 農業の企業参入、大規模化、自治体の直接参入など

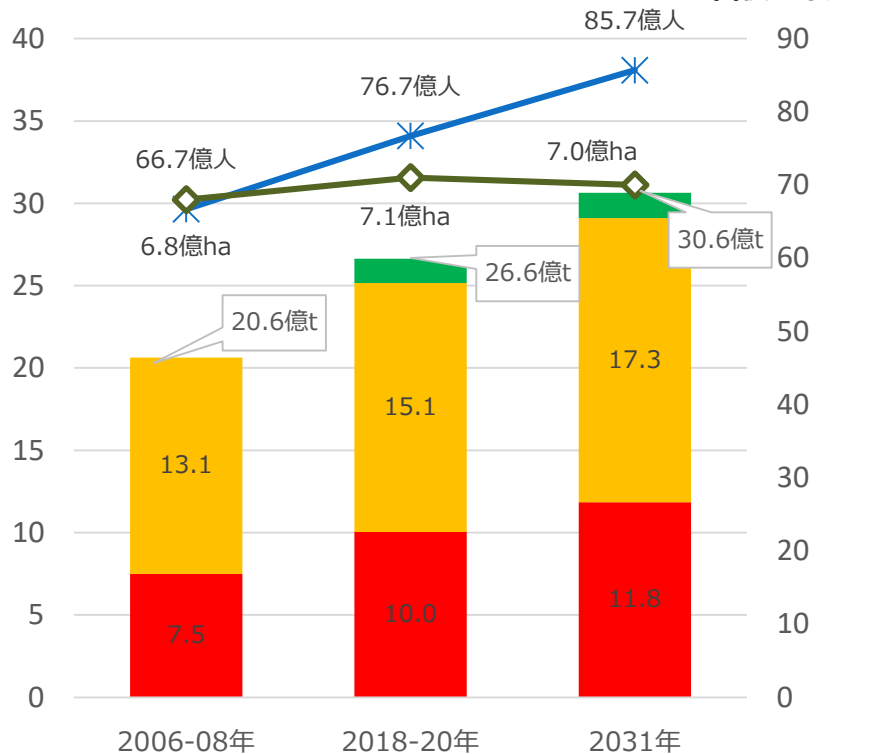


OATアグリオグループとして、『アグリテクノロジー』を極めることにより、チャンスへ！

◆世界の穀物需要と農薬市場

人口推移と穀物需要

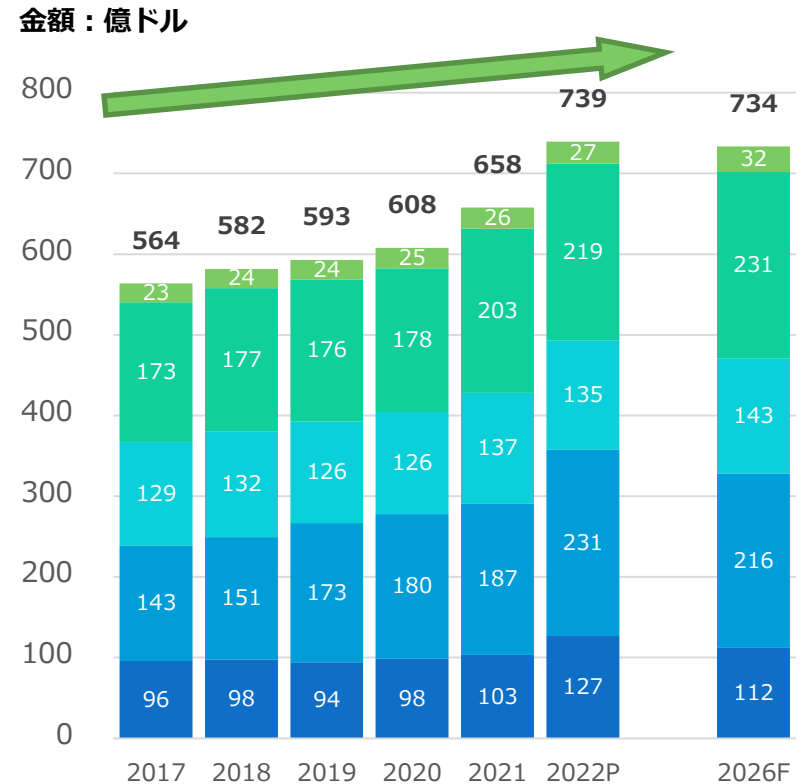
■ 飼料用 ■ 食用など ■ バイオエタノール ✱ 人口 ◆ 収穫面積
 穀物需要：億t 人口：億人
面積：千万ha



出典：世界の食料需給の動向と中長期的な見通し
(令和4年3月 農林水産政策研究所)

世界の農薬市場

■ 北米 ■ 中南米 ■ ヨーロッパ ■ アジア太平洋 ■ 中東・アフリカ



出典：AgbioInvestor

人口増・穀物需要増に対して耕地面積は横ばい ⇒ 単収増加が必要
⇒ 農薬市場が拡大。2020-2026年で 年平均3.2%増

◆「みどりの食料システム戦略」への対応

「みどりの食料システム戦略」概要

(農林水産省：2021年5月)

「みどりの食料システム法」(令和4年7月) 施行

国の基本方針(令和4年9月) 公表

「みどりの食料システム戦略」に基づく取組の進捗状況(令和4年12月)

OATアグリオ企業理念
“アグリテクノロジーを極める”

◆ KPI達成に向けた取組の進捗状況 (概要発表)

1. CO₂ゼロエミッション化

◆ **施設園芸への省エネ機器の導入：114千台**

栽培トータルソリューションサービス提供
「スマート農業」の普及

2. 化学農薬の使用量を50%低減

- ◆ **栽培暦の点検：JA/各地域合計600地区での実施**
- ◆ **全国約100地区において栽培暦見直し支援**
- ◆ **改正植物防疫法に基づく「総合防除基本方針」公示**

グリーンプロダクツの普及促進
バイオスティミュラント事業の促進

施設園芸用肥料の促進

3. 化学肥料の使用量を30%低減

◆ **化学肥料の使用量低減に資する栽培技術59地区で実施**

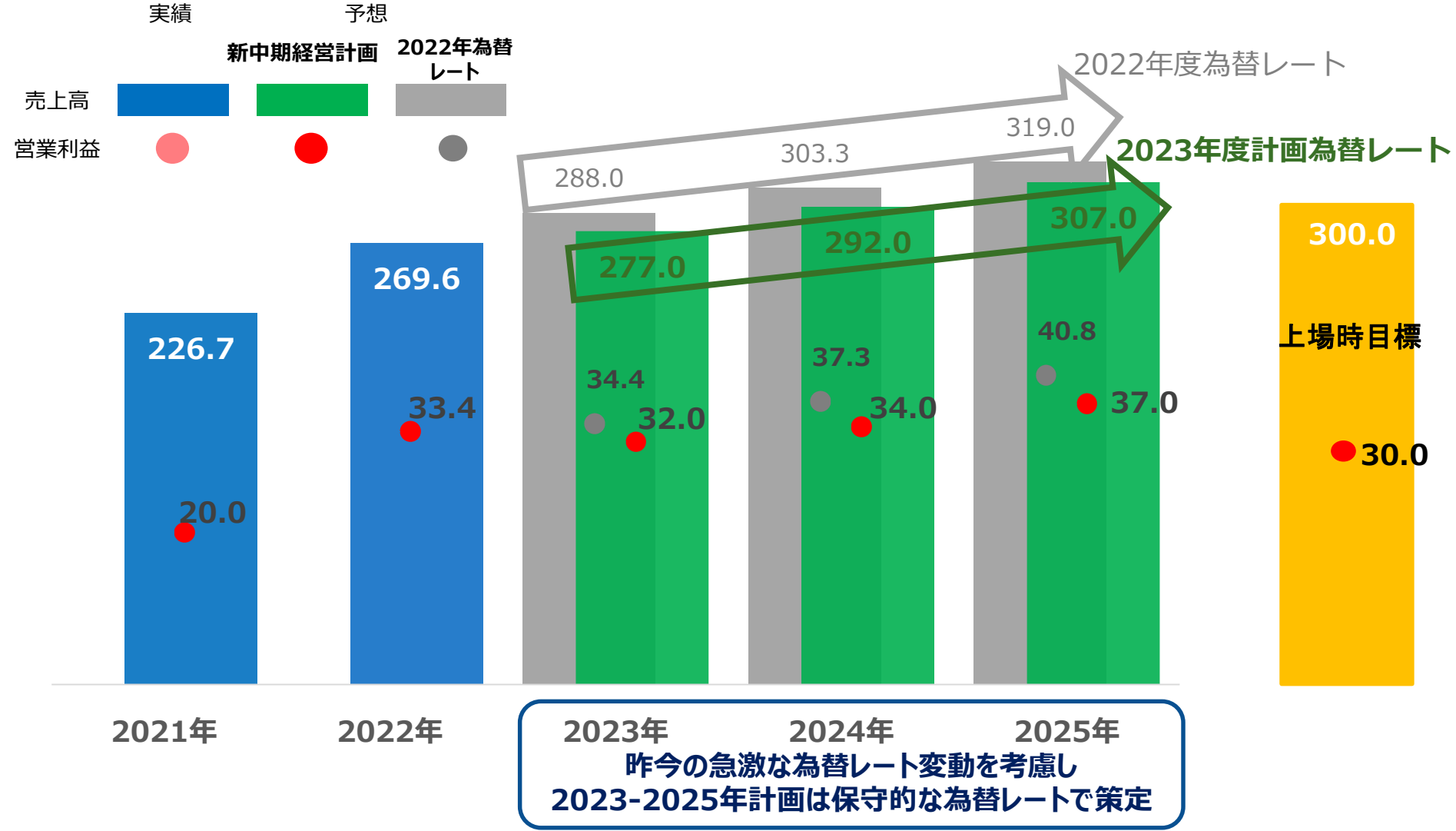
養液土耕システム導入にて慣行施肥
に対して **使用量約25%削減を実現**

4. 耕地面積に占める有機農業の割合

◆ **55市町村がオーガニックビレッジ創出取組み開始**

有機質肥料活用型養液栽培
「プロバイオポニックス」の活用
※新規JAS規格取得：2022年3月

◆新中期経営計画【2023-2025年】



2022年（上場 8年目）にて当初目標の営業利益： 30億円達成
2025年（上場11年目）にて当初目標の売上高： 300億円達成見込

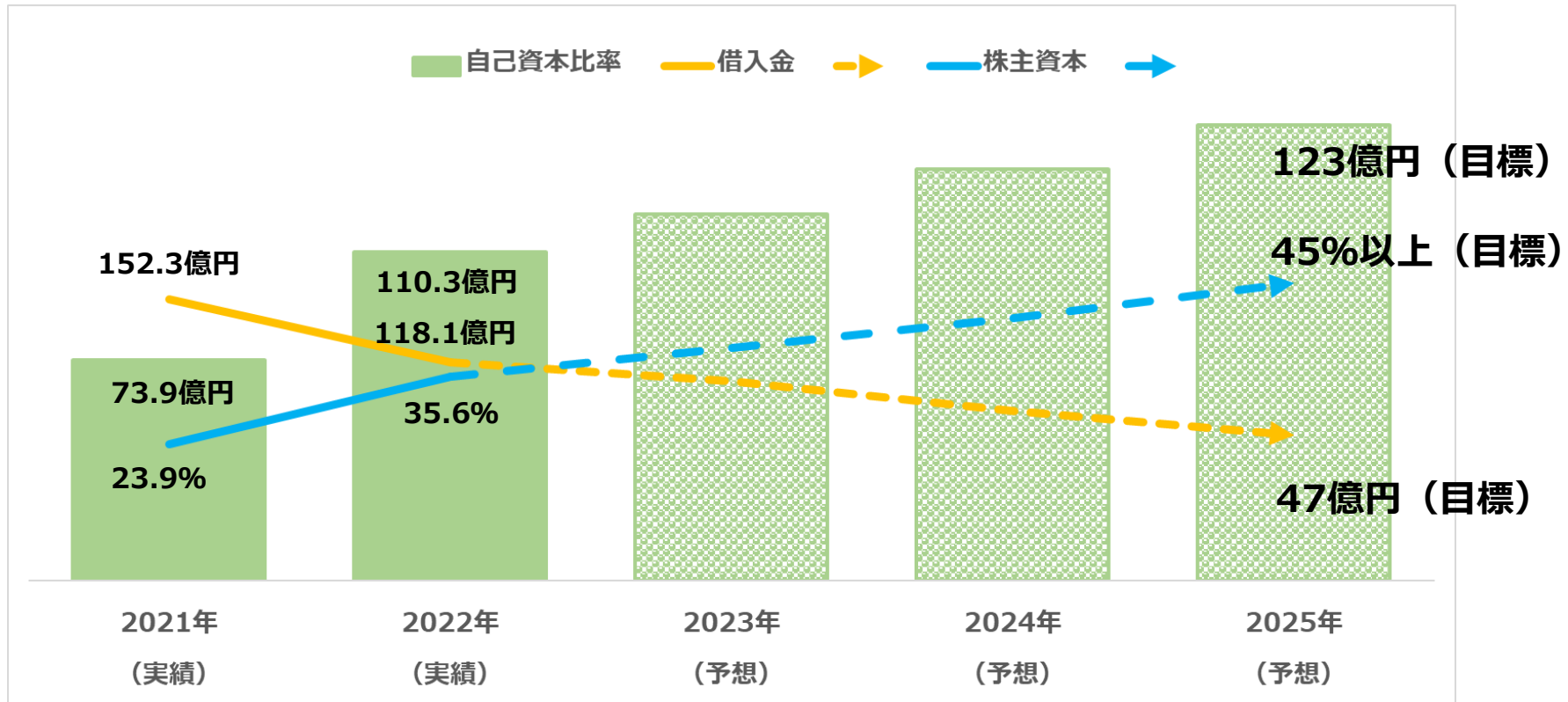
◆ 経営指標

◆ 新中期経営計画 (連結)

金額：億円

	2021年実績	2022年計画	2022年実績	2023年計画	2024年計画	2025年計画
売上高	226.5	232.6	269.6	277.0	292.0	307.0
営業利益	19.8	21.5	33.4	32.0	34.0	37.0
経常利益	19.7	20.3	33.8	31.2	32.8	36.0
親会社に帰属する当期純利益	14.4	13.2	22.6	21.0	22.1	25.5
売上高営業利益率 (%)	8.7%	9.3%	12.4%	11.5%	11.7%	12.1%
連結ROE	19.0%	15.0%	23.4%	17.8%	16.5%	16.8%

◆新中期経営計画【2023-2025年】財務目標



	2021年実績	2022年計画	2022年実績	2023年計画	2024年計画	2025年計画
連結ROE	19.0%	15.0%	23.4%	17.8%	16.5%	16.8%

- ◆ 自己資本比率 : 2025年目標 45%以上
- ◆ 連結ROE : 2025年目標 15%以上
- ◆ 剰D/E/シオ : 2025年目標 0.1

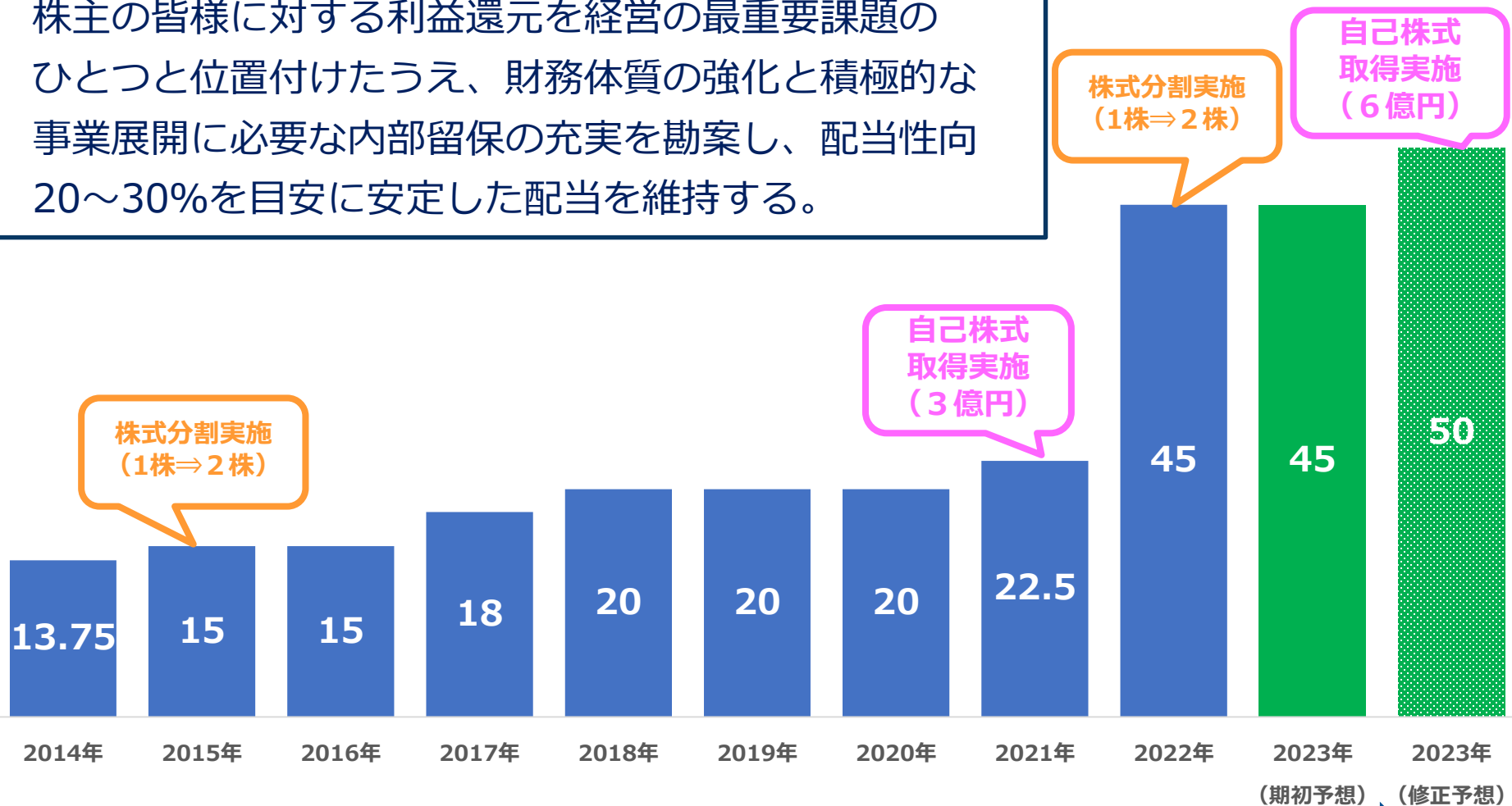
1. OATアグリオグループ概要と
2022年12月期連結業績
2. 2022年度の成果
3. 2023年トピックスと第2四半期業績
4. 新中期経営計画【2023-2025年】
5. **株主還元**

◆株主還元

【基本的な考え方】

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置付けたうえ、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、配当性向20～30%を目安に安定した配当を維持する。

単位：円／年



配当性向20～30%を維持

◆本資料の取扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関する見通し、将来に関する計画などが記載されております。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。